

A 国語問題

注意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は16ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は1〜3となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しくずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
0 1
0 2
● 3
0 4
0 5

(3と解答する場合)

— 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

近代の社会闘争の力学のチュウウスウにおかれた価値が平等である。私たちは平等の理念を手放すわけにはゆかないのである。平等には、しかし、互いに矛盾する二つの面がある。「平等」には実定的な性格と、実定性に限られない理念としての性格が同時に備わっている。

平等な社会関係が成立しているという判断を下すためには、複数の人間が比較可能とされることが必要である。比較可能とされるためには、比較の共通項あるいは共約性の場を想定しなければならない。給与が同じ、労働時間が同じ、過失に対する処罰が同じなどの点で平等がいわれるためには、比較される人びとの間に労働条件、権限、処罰、報酬などの比較可能性が設定されなければならない。幼児と成人、会社内の人間と会社に雇用されていない人間の間では、平等の比較可能性が予想されていないのが普通であり、例えば、幼児と成人の間で平等が問題とされることはほとんどない。このように、比較計量を確保するための場が社会的に認定されるときに、平等の制度化が可能となる。つまり、ここで問題となっているのは制度化されたかぎりの平等である。もちろん、平等の制度化は平等の実現にとって必要であり、この過程を無視することはできない。

ところが、制度化された平等が実効性をもち、平等が制度として再生産されるためには見逃すことのできない条件がある。それは、比較される人びとの集団が限定されていることである。有資格者の集団に属することが、平等を主張する必要条件となるのである。したがって、平等の主張は、平等の権限の有資格者であることの主張に伴われているのが普通である。

「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらずと云へり」という福沢諭吉の合州国独立宣言からの引用は、身分によって上下関係が定められた封建的な社会から平等を旨とする近代的な社会への移行を告げる名言として知られている。しかし、福沢は人間の平等が歴史的現実のなかですでに実現しているとは、もちろん、述べていない。現実の不平等は競争の結果生まれることを認め、競争が平等に行われうる社会的条件の実現を模索したの

である。さらに、彼は「自他之別」、つまり、自国民と外国人の区別を強調することを忘れてはいない。彼が、平等を宣言する「人」とは、初めは全人類のことを指したようにみえるが、やがて、「人」はまさに彼が作り上げようとした日本人という国民以外の何物でもなかったことが分かってくる。彼がいう人間とは有資格者の全体としての「国民」のことだったのである。

普通「国民」は、そのなかで平等がすでに成立した集団として空想される。明治以前のいわゆる封建社会では、理想的な社会秩序が身分の階層秩序と「身の程を弁えること」に見出されるのに対し、新たな国民国家では平等が理想的な社会秩序の基本の像を与えることになる。もちろん、国民という集団では直ちに平等が保証されているわけではなく、選挙権や教育権、国民皆兵などの制度がやがて徐々に実現されることになる。また、これらの制度ができたからといって国民社会の成員のすべてが平等の関係におかれるのではないにもかかわらず、国民社会はあたかもその成員のすべてが平等を享受し、平等を要求することができるという空想によって導かれる社会となるのである。

しかし、「同じ」になることから、直ちに平等が行き渡った共同体が成立していると結論することができるのだろうか。ここには、国民文化論（国民である以上、「われわれ」は「同じ」であるはずだ）と国民同化論（国民になるためには、少数者は「われわれ」と「同じ」にならなくてはならない）という二つの混同の典型的なパターンがあるように思われる。平等は限られた実践の場面での権限に関わる事項である。これに対して、兵士の忠誠心は義務に関する事項であり、国語は個人の能力に関する事項である。

1 「同じ」といっても、他の人びとと同じ権限をもつことと、他の人のことができることが自分にもできることは、全く異なった事態を示している。にもかかわらず、同じ国民に属していることが、同じ権限をもつこと、同じ能力をもつこと、同じ義務感を担うことなどと混同され融合されてゆく。「国民文化」や「民族文化」は、同一性をめぐる混同主義を支えていて、「文化」を用いることによって国民集団のなかに同じ権限、同じ能力、同じ義務、同じ感性、同じ歴史が均質に普及したエーテルのごときものが予想されてしまうのである。

2 教養や驥しつげを意味したはずの「文化」が、集団

に共通する「文化」へと変身し実体化されてゆく。そして、「文化」の実体化を通じて民族や国民の自然化が促進される。⁽³⁾「文化」の概念は「同化」の概念を準備するとともに、少数者の差別をも正当化する役割をはたす。国民は、やがて、運命共同体になり、同じ能力をもつ者の集団となり、自然化されてゆき、国民共同体が生活の全分野にわたる、いわば自然の共同性を体現する共同体であるかのように空想されることになる。

ところが、混同と融合の同じ過程において、同じ権限をもつ者であっても、同じ能力をもたないことや異なった習慣をもつことが国民共同体に帰属する資格に欠ける者、と見なされるようになってしまうことになる。運命共同体が樹立される過程で、逆に、「標準語」を話せないことや習慣の細微な違いが資格の欠落を意味するかのようになり、ハシの置き方の違いから特定の子音の発音の違いが、生活の実践にとつては全くどうでもよいことであるにもかかわらず、人を差別し劣等感をもたせる原因としてことさら採り上げられることになる。⁴つまり、自然化の傾向は、同時にマイノリティの有教化と蔑視の過程になるのである。国民同化

論は人びとに「同じになれ」と要求することによって「同じになれない者」への差別を正当化する。⁵

平等には比較可能性を逸脱する潜在性があり、⁽⁴⁾平等の理念には制度化された平等の比較の場を顕在化し、その限界を越えようとする運動が秘められている。つまり、平等の理念は制度化された平等を乗り越え、平等を再定義する力をもっているのである。平等の理念に内在するこの力を、私は、民主主義と呼びたい。それは「同じである」ことを旨とする共同性ではなく、「違う」ことをもとにして社会性や共同性を作り出す私たちに内在する能力を支えられている。民主主義とは「異なった人」たちと共生しつつ社会を作り出す私たちにすべてに備わった社会性のことなのである。

(酒井直樹「レイシズム・スタディーズへの視座」より)

(注) 合州国独立宣言——合衆国という表記が一般的。

問

(A) 線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書で記すこと)

(B) 線部(1)について。ここでの「実定的な性格」とはどのようなものか。その説明として最も適當なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 「平等」を特定の社会関係に限定したうえで制度化すること。
- 2 比較可能な共通項のみを対象として「平等」のあり方を追求すること。
- 3 「平等」を比較計量するための場と集団を社会的に認定すること。
- 4 特定の有資格者にのみ「平等」を主張する権限を与えること。
- 5 「平等」の実効性を社会闘争の力学に基づいて判断すること。

(C) 線部(2)について。筆者はなぜここで「空想される」という表現を用いるのか。その説明として最も適當なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 共同体を構成する成員のすべてが「同じ」になれば平等が達成され理想的な「国民」像が生まれるかのよう
うな、危険な錯覚が蔓延しつづけると考えているから。
- 2 「われわれ」は「同じ」であるという意見と「われわれ」は「同じ」にならないという意見
が、いつの間にか混同されるようになったと考えているから。
- 3 平等が理想的な社会秩序の基本像であることは認めつつも、それが過剰に働くことで「国民」という妄想
が社会の隅々にまで定着してしまうのではないかと考えているから。
- 4 与えられた環境やその能力に応じて歴然とした違いがあるにもかかわらず、「国民」として一括りにされた
ことで人々の不平等に目隠しがなされたと考えているから。
- 5 すべての「国民」が平等を享受し公平な社会の実現を要求することができると思い込むのは、実
現不可能な夢物語のようなものだと考えているから。

(D) ——線部(3)について。「文化」の概念は、なぜ「少数者の差別をも正当化する役割をはたす」のか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 「文化」を実体化しようとすると、生活の実践においてはいつでもよいことにも同一性の原理が持ち込まれ、習慣が微妙に違うだけで国民共同体の秩序を脅かす存在であるかのような偏見が生まれるから。

2 同じ国民なのだから同じ権利と同じ義務を持つてははずだと考える「文化」の混同主義が浸透することによって、少数派を差別することで自分たちの運命共同体意識を高めようとする力学が働くようになるから。

3 すべての国民が同じ「文化」を有していると信じる人々にとつて、国民共同体に組み込まない人々は自分たちとともに生活する資格のない者たちであり、劣等だとみなされる風潮を作り出すから。

4 「文化」は言葉や習慣といった生活の実践と深く関わりながら個々の人間性を形成しているが、そこに優劣の基準が持ち込まれたとたん、上位に位置づけられた者が下位の者を見下すような暴力性を発揮するから。

5 「われわれ」は同じ「文化」を共有しなければならぬという考え方が強固になることでマイノリティが有徴化され、共同体の秩序を守るためには彼らを同化させなければならないという考え方が広がるから。

(E) ——線部(4)について。筆者が考える「平等の理念」の説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 平等は、異なるものをひとつに同化させようとする力学を無力化し、たゆまぬ実践のなかで不断に問い直されていくものでなければならぬ。

2 人々が自分の帰属する共同体のなかで平等を実感しながら生活するためには、意見や考え方の異なる人々を積極的に受け容れていく寛容が必要である。

3 誰もが平等を享受できるような社会を実現するためには、少数派に属する人々が不利益を被らないような制度改革を行い続けていくことが重要である。

4 この世の中には「同じになれ」と言われても「同じになれない者」がいる以上、「同じである」ことを旨と

する平等には限界があることを認識すべきである。

5 私たちは、「異なった人」と共生するなかで生じるさまざまな課題や困難をひとつひとつ解決し、真の平等を実現させるために尽力しなければならない。

(F) 次の一文は本文から抜き出したものである。この一文が入る最も適当な箇所を空欄 のうちから一つ選び、番号で答えよ。

「生活の全分野にわたって共同性が成り立っているかのように国民統合を空想することを、とりあえず自然化の傾向と呼んでおこう。」

(G) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 近代社会は国民の選挙権や教育権を実現したが、そうした諸制度が逆に国民の不平等を助長したことも事実である。

ロ 福沢諭吉は、人々の競争が不平等をもたらすことを認めたくらまず競争を平等に行う社会的条件を実現しようとした。

ハ 比較計量が可能な平等が制度としての実効性をもってしまうと、理念としての平等を実現することが困難になる。

ニ 異なる文化や価値観をもった人々が融合し、同じ権限を持つもの同士として認め合うところにこそ本来の共生がある。

ホ 国民同化論は、他の人と同じ権限をもつことと他の人にできることが自分にもできるといふことを混同させる。

二 左の文章は、中国語や台湾語を一部交え、日本の家庭を描いたエッセイである。これを読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

「ピーチク・パーチク」という擬音語があるが、台湾語でそれにあたるのは「キリグアラ・キリグアラ」(とわたしは思っている)。我が家の女はお喋りだ。わたしと妹がピーチク・パーチク、母はキリグアラ・キリグアラ。ともかくにもにぎやかでやかましい。わたしと妹は主に日本語で喋るのだが、母は日本語のほかにも中国語や台湾語をホンポウに繋ぎあわせる。たとえば母は、

—— あんたたちがペチャクチャ喋ってるのを聞いていると、お菓子を食べそびれちゃう。と言いたいとき、こんなふう話す。

—— ティアー・リン・レ・講話、キリクアラキリクアラ、ママ、食べれないお菓子。

あいもかわらず母は単語と単語の繋ぎ方が「適当」きわまらない。日本語としてはもちろん、中国語としても台湾語としても「非文」というやつである。

ところで母は、日本語のみの文章を話すときも、

—— おいしいのご飯、つくるよ。

—— ほら、薬、食べてね。

—— 空、黒くなってきた。

といった独特の表現で胸を張る。子どもの頃は、ママったら、まーたへんな日本語を話してる、と思ったものだが、自分で中国語を学習するようになって、その「正体」が少しずつ掴めてきた。

中国語では、「美味しいご飯」は「好吃的飯」。「薬を服用する」は「吃藥」。そして「日が暮れる」が「天黑了」という。それぞれ直訳すれば「おいしいのご飯」「薬を食べる」「空が黒くなる」である。要するに母の繰り出す日本語には、母の母国語である中国語の気配が惜しみなく漂っている。東京・大久保で「餃子おいしいの店」と

いう看板を見かけたときは、思わず立ち止まってしみじみ眺めてしまった。もしも自分が家族と離れ一人異郷をさまよっているときにこの看板を目にしたのなら、きつと目頭を熱くしたにちがいない。そして、いないとはわかつてはいるけれど、懐かしい母の面影を求めてこの店の中へと吸い込まれただろう。うちに帰ってから、

——ちよつと聞いてよ、今日ね、ママみたいな看板を見たよ。

いそいそと妹に報告する。妹も、異国で一人のときそんな看板を見てしまったのなら絶対に感涙するだろうと同意する。そこへ、とうの本人である母があらわれる。

——リン・レ・説什麼？

(何のお喋りをしてるの?)

(2) わたしと妹は顔を見合わせて、ナンデモナイ、と含み笑いする。母は、ワカッタ、と叫ぶ。

——リン・コレ・ゴン・ママ的壞話！

(あなたたち、またママの悪口言ってるんでしょ！)

母独特の表現のうち、わたしたち姉妹のお気⁽³⁾に入りのひとつが「迷子する」である。

——迷子する、という言い方はおかしい。正しくは、迷子になる、と言わなきゃならない。

わたしや妹がいくらそう教えても、次には「迷子する」と言っている。

母が、道に迷わないでね、のつもりで、

——迷子しないでね。

と言ってしまうのは、おそらく「迷子」という日本語をつかうときに「迷路」という中国語をイメージしているからなのだと思う。中国語の「迷路」(迷路)は、日本語の「迷路(めいろう)」ではなく、「道に迷う、道を失う」の意味である。「迷」が「迷う」という動詞にあたる。ところが日本語の「迷子」は、もともと、「まよひこ」すなわち「道に迷っている状態の子どもやひと」のことを指す。だから「道に迷う」という意味でつかいたいのなら、「迷子になる」と言うのがふつうだ。迷子は、知らず知らずのうちに「なる」ものであって、みずからの意

志であえて「する」ものではないのだから。しかし母は、「迷子」と「迷路」を混同するのか、「『迷路』をしない
で」と言うつもりで、つい「迷子しないでね」と言ってしまうのだろう。それにしても、「迷子をする」。ちよつ
と面白いかもしれない。正規のルートに従わず、わざと逸脱し、みずから「迷子をする」……急に「迷子」が魅
惑的なことに思えてくる？ こうした母によるちよつぱりトンチンカンなニホンゴを、わたしと妹は「ママ語」
と呼んでいる。

——ママが、おいしいのギョーザをつくってくれてるって。

——迷子しないように気をつけなきゃね。

こんなふうに姉妹で「ママ語」を織り込んで喋っている、母は（母）フンガイする。もう、からかわないでよ、マ
マのニホンゴ、ちゃんと直してよ、と言う。わたしたちは示し合わせて、

——言っても直らないんだもん。

……考えてみれば子どもの頃は、母が何か言い違えるたび、ママそれ違うよ、といちいち訂正していた。それ
にわたし自身も、小学校の低学年ぐらゐまでは、おかしな日本語をつかうことがあった。友だちの家でお手洗
いを借りようとして、

——どこで電気を開けるんですか？

えっ、と友だちのお母さんが変な顔をしたのを覚えている。中国語では、電灯やテレビなどのスイッチを入れ
るとき、「開」という動詞をつかう。「開」は直訳すれば文字通り「開く、開ける」となる。それに引きずられて
わたしは「電気を開ける」と言ったのだ。家ではだれにも注意されなかった。父も母も、「電気を開ける」という
日本語を特に不自然とは感じなかったのだろう。

七時のことを、ななじ、と言って友だちに笑われたこともある。

——ユウジュウちゃんつたら、赤ちゃんみたい。

七、という数字は、なな、とも、しち、とも言うけれど、時間を示すときは、しち、と言わなければならぬ

……きつと、日本の子たちはこんなふうには、親が訂正してくれたのだろう。わたしは恥ずかしかつた。ほかならぬ母が、ななじ、と言うのを聞いてわたしは癩癩かんじやくを起こす。しちじ、つて言わなきやへんなのよ！

もうその頃になると、我が家で最も日本語に長けてたくいるのは、わたしだった。特に、一緒にいる時間の長い母の奇妙な日本語が気になるようになった。母は、十歳になるかならない娘のわたしに間違いを指摘されても、ハイハイワカリマシター、といつも大らかで——そういう性格なのだ——ちつとも真剣に受け止めてくれない。わたしだけが神経質になって、まともな日本語を喋らない（喋れない）母に苛立いらだつのだつた。

——どうしてママは、ふつうのお母さんみたいに、ちゃんと日本語を喋らないんだろう？

たぶん中学生だつたと思う。いろいろなことが積み重なつて、たまらなくなつたわたしは、こらえきれず、思いのたけを母にむかつてぶつけたことがあつた。⁽⁴⁾そのときのことを今でもよく覚えている。母は、しんと黙り込んだ。そして、

——ごめんね、ママ、ふつうじゃない。

ニホンゴが震えていた。

あれから十何年かが経つた。大人になつた娘たちに、ママのニホンゴ言つても直らないんだもん、と言われて、それもそつか、と笑う母に、わたしは言う。

——気にしないでよ。ママはそのままのほうがいいもん。

心からそう思うのだ。日常生活を送る上で困ることはないけれど、母のニホンゴはいもかわらずちよつぴりユニーク。母による「正しくない」表現の数々は、一見トンチンカンだけど、それなりの法則がある。

——薬、食べた？

——迷子しないでね。

——おもしろい話、あるよ。

これらの「ママ語」を「ママ語」たらしめているのは、吃薬、迷路、好玩的話……といった中国語や台湾語だ。

それを知ってからは、余計に母のニホンゴを興味深いと感じるようになった。こうした「ママ語」の数々は、やもすれば日本語だけでものを思い、考えてしまうわたしにとって、凝り固まったアタマを心地よく解きほぐしてくれる効果がある。

それで近頃のわたしは、母がキリクアラ・キリクアラ喋りだすと、とびきりの「ママ語」が紛れ込んでいないかどうか期待を込めて耳を傾ける。

(あたしも、ふつうのママが欲しかった)。

子どもの頃の、そんな自分に教えてあげたい。(5) ママのニホンゴは素晴らしい。今に、みんなが羨ましがるようになる。娘の表情から何か感じ取ったのか、

——笑什麼？ ……アイー、リ・コレ・シユン・欺負媽媽的事！

(なに笑ってるの？ あ、またママのことからかおうとしてるんでしょ！)

母がわたしを睨にらんでいる。

(温又柔『台湾生まれ日本語育ち』による)

問

- (A) 〓 線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書かいしよで記すこと)
- (B) 〓 線部の読みを、平仮名・現代仮名遣いで記せ。
- (C) 〓 線部(1)について。具体的に述べた箇所を本文中から句読点とも六字で抜き出して記せ。
- (D) 〓 線部(2)について。ここでの姉妹の気持ちを示す内容として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 憎しみに対する羞恥
- 2 懐かしさを覚えた幸福感
- 3 過ちをおかしたことへの後悔
- 4 発見にともなう興奮
- 5 愛情のこもった距離感

(E) ——線部(3)について。「お気に入り」の理由として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 知らずになるはずの迷子を、わざとしようだから。
- 2 同じ「迷」という漢字を使うことばだから。
- 3 「する」と「なる」の区別をわざと間違えているから。
- 4 迷子が道に迷うと重ねて言っているから。
- 5 熟語に動詞を直接つけた表現だから。

(F) ——線部(4)について。その理由として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 日本語にあまりこだわらない母に気づいたから。
- 2 自分と母の違いを明らかにしてしまったから。
- 3 親への初めての反抗だったから。
- 4 今もちゃんとしてほしいと思っているから。
- 5 ふふうのお母さんのように喋れなかったから。

(G) ——線部(5)について。その理由を表している一続きの部分を、本文中から三十字以内で抜き出し、初めの十字を記せ。(句読点や記号があれば、それも字数に含む)

(H) 次の中から、本文の内容と合致しないものを一つ選び、番号で答えよ。

- 1 わたしも妹も、ことばについて母と異なる態度を取っている。
- 2 日本語と中国語や台湾語を混同すると、面白い表現が生まれる。
- 3 へんな日本語は逸脱しているところが魅惑的だ。
- 4 わたしと妹は意識的に「ママ語」を使うことがある。
- 5 大人になった娘たちは、母親に批判的なことばを投げかける。

三 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答题紙に書くこと)

(注1) 醍醐の桜会に、(注2) 童舞おもしろき年ありけり。源運といふ僧、その時、少将の公とて、みめもすぐれて、舞もかたへにまさりて見えけるを、宇治の宗順阿闍梨見て、思ひあまりけるにや、あくる日、少将の公のもとへ言ひやりける、

昨日見し菅田の池に袖濡れてしぼりかねぬといかで知らせん

少将の公、返事、

(3) あまた見し菅田の池の影なれば誰ゆゑしほる袂なるらん

と言へりける、時にとりて、やさしかりけり。

(注3) 中院の僧正、見物し給ひけるが、これを聞きて、いみじと思ひしめて、入道の右府に對面し給ひけるついでに、この事を語りいで給ひて、「やさしくこそおぼえ侍りしか」とありけれど、入道殿、「歌はおぼえさせ給はじ」とのたまひけるを、「そればかりは、などか」とて、「少将の公がもとへ、宗順阿闍梨つかはし侍りし、『きのふ見しにこそ袖は濡れしか』と詠めるに、少将の公、『荒涼にこそ濡れけれ』とぞ返して侍りし」と語り給ひけるに、たへがたくをかしく思しけれど、さばかりの生き仏の、ねんごろに言ひいで給ひけることなれば、しのび給ひけるなん、すちなくおはしけり。

(『古今著聞集』による)

(注) 1 醍醐の桜会——京の醍醐寺で三月中旬に行われる法会。観桜を伴う。

2 童舞——子供による舞い。面をつけずに舞う。

3 入道の右府——源雅定。平安時代後期の公卿で歌人。「右府」は「右大臣」の意。

問

(A) ~~~~~線部(イ)と(ハ)には、同一人物を異なる呼称で示したものがあつた。その説明として最も適當なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 (イ)と(ロ)、(ニ)と(ヘ)が、それぞれ同一人物である。
- 2 (ロ)と(イ)、(ホ)と(ハ)が、それぞれ同一人物である。
- 3 (イ)と(ロ)だけが、同一人物である。
- 4 (ロ)と(イ)だけが、同一人物である。
- 5 (ニ)と(ヘ)だけが、同一人物である。
- 6 (ホ)と(ハ)だけが、同一人物である。

(B) 線部(1)の現代語訳として最も適當なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 比類がないほど
- 2 すぐ近くでは
- 3 皆それぞれに
- 4 他の童よりも
- 5 少しずつ

(C) 線部(a)・(b)の文法上の説明として最も適當なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ番号で答えよ。ただし、同じ番号を二度用いてもよい。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 尊敬の助動詞 | 2 可能の助動詞 | 3 完了の助動詞 |
| 4 断定の助動詞 | 5 格助詞 | 6 接続助詞 |

(D) 線部(2)について。池の水ではなく實際は何に「濡れ」たことを暗示しているか。漢字一字で答えよ。

(E) 次の各項について、線部(3)の和歌の説明として適當なものを1、適當でないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

- イ 「あまた見し菅田の池の影」は、世の中に舞の名手が大勢いることを暗示している。
- ロ 「菅田の池」は地名であるとともに、「姿」という名詞との掛詞になっている。
- ハ 「影」という比喩を用いて、人の一生ははかないものだということを示している。
- ニ 「誰ゆゑしぼる」は、「あなたのせいで絞っているのです」という意を伝えている。
- ホ 一首全体として、宗順阿闍梨から示された気持ちをうまくはぐらかしている。

(F) 線部(4)の現代語訳として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 優雅だった
- 2 情け深かった
- 3 巧みだった
- 4 厳かだった
- 5 初々しかった

(G) 線部(5)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 歌だけは何とも思い出してみましよう
- 2 歌ぐらいはもちろん記憶しています
- 3 どうして歌のことばかり尋ねるのですか
- 4 歌ならば私だって詠むことができます
- 5 歌については何も習い覚えていません

(H) 線部(6)について。どうして「をかしく」思ったのか。その理由として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 中院の僧正が、短歌の形式をよくわきまえないまま、要領を得ない説明をしたから。
- 2 中院の僧正が語って聞かせた二首の短歌のやりとりが、とてもすばらしかったから。
- 3 中院の僧正が、それほど優れてもいない自作の短歌を誇らしそうに詠みあげたから。
- 4 中院の僧正が、僧侶としてだけでなく、歌人としても優れていることを知ったから。
- 5 中院の僧正が説明した二首の和歌の解釈が、どちらとも全く見当はずれだったから。

(I) 線部(7)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 飾らずに
- 2 よく考えて
- 3 控えめに
- 4 うかつに
- 5 心をこめて

(J) 線部(8)の現代語訳を、五字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(K) 線部(9)の現代語訳として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 かいもなく
- 2 はてしもなく
- 3 どうしようもなく
- 4 紛れもなく
- 5 苦もなく

(L) 線部の助動詞を、係り結びの法則に適合する活用形に改めて記せ。